

2025年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	会計学入門（Introduction to Accounting）		
ナンバリングコード	E10602	大分類／難易度 科目分野	経営経済学科 専門科目／基礎レベル 会計ファイナンス
単位数	2	配当学年／開講期	1 年／後期
必修・選択区分	選択：経営経済学部 ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	E050251	クラス名	-
担当教員名	吉本 圭一郎、長崎 浩介		
履修上の注意、 履修条件	・google classroom経由で課題や資料等を出しますので、必ずgoole classroomに参加してください。 ・授業では電卓を使用することがありますので、授業に持参してください。		
教科書	事前に、google classroomに授業資料を出します。		
参考文献及び指定図書	小栗崇資・森田佳宏編著（2023）『スタートガイド会計学』（第2版）中央経済社		
関連科目	「簿記入門」を履修済みであれば、さらに理解が深まると思われます。		

○基本情報		
授業の目的	会計分野には簿記からはじまり、財務会計、原価計算、管理会計、経営分析、監査、税務会計などがあります。これらの内容がどういったものであるかを知り、その科目間の関係をあらかじめ理解しておくことは、これから会計学を専門的に学習するうえで重要となります。 そこで本講義では、会計学をはじめて学ぶ学生を対象に、(1)簿記会計の仕組みや歴史、(2)財務会計、(3)原価計算、(4)管理会計、(5)経営分析、(6)監査、(7)税務会計などの入門的な要素を学び、科目の関係性や基礎的な理論を理解し、会計学への理解、興味関心を深めることを目的とします。	
授業の概要	本講義は、毎回レジュメを用意し、これに沿って授業を展開します。この講義は会計分野の導入科目として位置づけられていますので、とくにその基礎的部分を大事にして授業をおこないます。 授業は基本的に講義形式でおこないますが、適宜、グループディスカッションをおこなったり、会計関連の動画を視聴したり、授業中に計算問題を解いたりしてもらうことがあります。	
授業の運営方法	(1) 授業の形式	「講義形式」
	(2) 複数担当の場合の方式	「共同担当方式」
	(3) アクティブ・ラーニング	「該当なし」
地域志向科目	該当しない	
実務経験のある教員による授業科目	本授業の実務経験として、一般企業の経理業務や決算申告業務などの会計業務に従事（吉本）。 本授業の実務経験として、民間企業において経理事務、地方自治体において税務、監査等に従事（長崎）。	

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100%)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【ディプロマ・ポリシー①】	・会計学に関する基礎的知識を修得できている。 ・会計学の基礎的なスキルを修得し、専門用語を正確に使用、説明することができる。	70%		
【ディプロマ・ポリシー②】	・会計学の基礎的な問題について多角的に考察・分析し、それを論理的に説明することができる。			15%
【ディプロマ・ポリシー③】	・会計学の基礎的な問題について、修得した知識と能力を総合・活用し、解決しようすることができる。		15%	

※教養教育科目及び教職科目については大学DP、専門科目については各学部DPIに準じています。

○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)
[Sレベル]到達目標を満たしている。 [Aレベル]到達目標をほぼ満たしている。 [Bレベル]到達目標をかなり満たしている。 [Cレベル]到達目標を一部満たしている。 ・レポートは、授業時に指示される注意事項に従って締切日まで提出してください。すべて提出した場合は、評価の対象とします。 ・授業に欠席や遅刻・早退せずに、意欲的に取り組んだ場合、評価の対象とします。 ・配布資料の概説や実習問題などを通して、授業内容や課題のフィードバックができるようにします。

○その他
授業内容についての質問は、授業後の教室やメール、google classrooomでも受け付けます。 不明点を先延ばしにせず、積極的に質問し、解決する習慣をつけましょう。

2025年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科目名 担当教員	会計学入門 (Introduction to Accounting) 吉本 圭一郎、長崎 浩介	授業コード	E050251
学修内容				
1. イントロダクション				
授業の進め方などのガイダンスをうけたあと、会計の意義や種類、役割などを理解します。				
予習	google classroomにある授業レジュメを熟読する。			約2時間
復習	レジュメの内容を復習し、課題と確認問題に取り組む。			約2時間
2. 会計の歴史				
会計帳簿はいつから始まりどのように広がったのか、複式簿記はいつ誕生したのか、株式会社はいつ生まれどのように発展したのかなど、会計の歴史について理解します。				
予習	google classroomにある授業レジュメを熟読する。			約2時間
復習	レジュメの内容を復習し、課題と確認問題に取り組む。			約2時間
3. 簿記と会計				
簿記と会計の関係や複式簿記の仕組み、財務諸表の仕組みなどを理解します。そして、法律と会計ルールの関係、会社法会計と金融商品取引法会計の関係、日本の会計制度などについても理解します。				
予習	google classroomにある授業レジュメを熟読する。			約2時間
復習	レジュメの内容を復習し、課題と確認問題に取り組む。			約2時間
4. 財務諸表の見方				
企業の財務諸表(貸借対照表と損益計算書)について、その仕組みや意義、内容などについて理解します。				
予習	google classroomにある授業レジュメを熟読する。			約2時間
復習	レジュメの内容を復習し、課題と確認問題に取り組む。			約2時間
5. 原価計算				
原価計算の意義や目的、原価の構成要素、原価計算の種類などについて理解します。さらに、個別原価計算の計算方法や総合原価計算の計算方法についても学びます。				
予習	google classroomにある授業レジュメを熟読する。			約2時間
復習	レジュメの内容を復習し、課題と確認問題に取り組む。			約2時間
6. 管理会計				
管理会計の意義や目的、管理会計情報の性質、管理に関わる会計上の概念、管理に利用されるコスト概念や利益概念などについて理解します。				
予習	google classroomにある授業レジュメを熟読する。			約2時間
復習	レジュメの内容を復習し、課題と確認問題に取り組む。			約2時間
7. 監査				
公認会計士による監査は誰のために行われるか、監査意見の種類や公認会計士監査の特徴、監査手続きの種類、監査の品質維持のための仕組みなどについて理解します。				
予習	google classroomにある授業レジュメを熟読する。			約2時間
復習	レジュメの内容を復習し、課題と確認問題に取り組む。			約2時間
8. 税務会計				
租税の基礎知識を学習したあと、法人税や税務会計、税務会計と企業会計の関係などについて理解します。				
予習	google classroomにある授業レジュメを熟読する。			約2時間
復習	レジュメの内容を復習し、課題と確認問題に取り組む。			約2時間

○授業計画	科目名 担当教員	会計学入門 (Introduction to Accounting) 吉本 圭一郎、長崎 浩介	授業コード	E050251
学修内容				
9. 財務諸表の読み方① 財務諸表の構造				
企業の決算の結果を表す財務諸表にはどのようなものがある、何が書かれていて、そこから何が分かるのでしょうか。この回では、財務諸表の種類とフォーマット、記載内容と計算構造(財務諸表間の数字のつながり)について学習します。				
予習	google classroomにある授業レジュメを熟読する。			約2時間
復習	レジュメの内容を復習し、課題と確認問題に取り組む。			約2時間
10. 財務諸表の読み方② 企業の安全性を評価する				
企業の安定性(裏返して言えば倒産可能性)を評価する安全性分析の指標について学習します。具体的には、流動比率、当座比率、固定比率、固定長期適合率、自己資本比率などを取り扱います。				
予習	google classroomにある授業レジュメを熟読する。			約2時間
復習	レジュメの内容を復習し、課題と確認問題に取り組む。			約2時間
11. 財務諸表の読み方③ 企業の収益性を評価する				
企業の「稼ぐ力」を評価する収益性分析の指標について学習します。具体的には、売上高利益率、資本利益率などを学習します。				
予習	google classroomにある授業レジュメを熟読する。			約2時間
復習	レジュメの内容を復習し、課題と確認問題に取り組む。			約2時間
12. 財務諸表の読み方④ 企業の効率性を評価する				
企業の有する資源が効率的に運用されているかどうかを評価する効率性分析の手法について学習します。具体的には、総資本回転率など各種回転率・回転期間を学習します。				
予習	google classroomにある授業レジュメを熟読する。			約2時間
復習	レジュメの内容を復習し、課題と確認問題に取り組む。			約2時間
13. 財務諸表の読み方⑤ 収益性と効率性の総合的評価(デュポン公式)				
売上高利益率、資本利益率と資本回転率を統合した財務分析モデルであるデュポン公式について、その分析手法と活用方法について学習します。				
予習	google classroomにある授業レジュメを熟読する。			約2時間
復習	レジュメの内容を復習し、課題と確認問題に取り組む。			約2時間
14. キャッシュ・フロー分析				
損益計算書は発生主義で表示されるため、損益計算書で利益が生じていても、必ずしもキャッシュ(現金や預金＝支払資金)の裏付けはありません。しかし、支払資金の不足は倒産に直結するため、企業にとってキャッシュの確保は重要な問題であり、投資者にとっても重大な関心事です。そこで、企業のキャッシュ・フローの状況を表すキャッシュ・フロー計算書が財務諸表に追加されました。この回では、キャッシュ・フロー計算書のフォーマットと計算構造を確認するとともに、それを活用してどのような財務分析ができるのかを学習します。				
予習	google classroomにある授業レジュメを熟読する。			約2時間
復習	レジュメの内容を復習し、課題と確認問題に取り組む。			約2時間
15. 損益分岐点分析				
企業は、売り上げが全くななくても、存在するだけで費用がかかります。このような費用を固定費といい、モノを売った儲けで固定費を支払い、さらに余りが出たときに企業は初めて利益を得ることができます。モノを売った儲けで固定費を全部回収できる、つまり損益がゼロとなる売上高あるいは売上数量を損益分岐点といい、ビジネスの最初の目標は売上が損益分岐点をクリアすることにあります。この回では、損益分岐点分析の基本的な意義を確認した上で、損益分岐点公式とその活用方法について学習します。				
予習	google classroomにある授業レジュメを熟読する。			約2時間
復習	レジュメの内容を復習し、課題と確認問題に取り組む。			約2時間
16. 期末試験				
15回までの講義内容を試験範囲とします。				
予習				
復習				